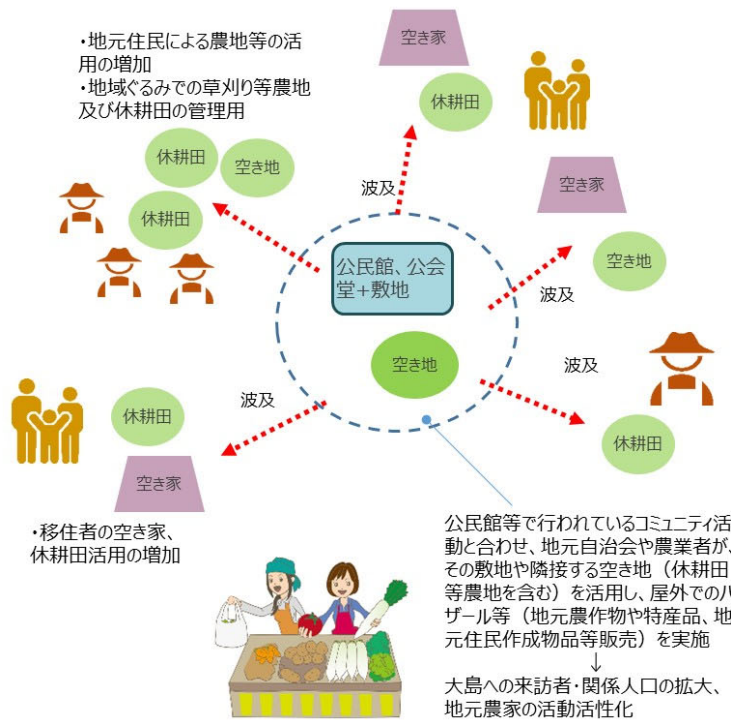


活動範囲	対象地域の特性	地域が抱えている課題	取組の方向性	解決方策
集落	市街化調整区域で集落部以外は概ね県立自然公園区域である。都市部には近いため近年人口の流出が著しい。	中心部に位置する公園は利用者が少なく有効活用されていない。また、棚田は法面も高く、過去に管理作業で死亡事故が起きる等、休耕田増加の一因となっている。	適正管理／利活用促進	<ul style="list-style-type: none"> ● 低未利用な地域中心部の公園については、定期的なバザール開催の要望が地域から出ており、バザールを実験的に実施する。その結果も踏まえ、関係機関と協議し、専門家の支援を得ながら構想案を作成する。 ● 休耕田対策として、最適な管理作業のあり方について地元営農組合と協議する ● 推進にあたり、地域主体で行政、専門家とプロジェクトチームを結成する。

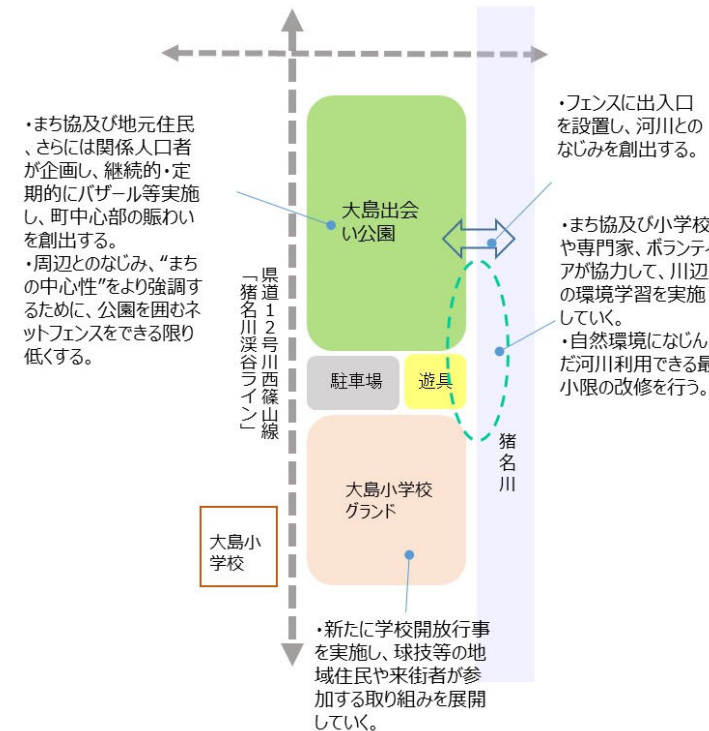
事業内容・スキーム

- 低利用な地域中心部の公園に関しては、地域活性化に資する定期的なバザールを開催するとともに、猪名川に接していることからコロナ下で発展しているアウトドア型の楽しみができる親水公園の計画を作る。
- 休耕田対策としては、危険な管理作業の有効な方法を見出し、地域内での仕事を創出してサステナブルな農業経営を検討する。
- これらを広く空き土地対策（所有者不明土地発生の予防策を含む）として総合的に取り組み、地域が主体となり行政や土地等の専門家の支援も得ながらプロジェクトチーム結成して取り組んでいくことで、より住みよい地域づくりを行い移住等に結び付けていく。

◇ 空き地（休耕田を含む）をサステナブルに推進していくための構想“大島モデル”



◇ 低利用な地域中心部の「大島出会い公園」の活性化に資する利用と改修提案



取組目標	取組内容と成果	取組目標	取組内容と成果
低未利用な地域中心部の「大島出会い公園」の活性化に資する利活用と改修提案の作成	協議会のリーダーシップにより早期にバザールの開催ができたことで、公園及び猪名川に接する箇所の検討が多角的にできるようになり、来年度以降の当公園でのイベント計画立案につながった。	集落内空き地の利用方法の提案	エリアを決めて、モデル的な集落に集中して協議したことで、実現性があり空き地を連鎖的に活用できるモデル案を作成することができた。 プロジェクトチームに自治会長や農会長、PTA会長など地域活動に携わるメンバーの参加により、的確な提案を行うことができた。
サステナブルな農業経営に資する危険法面等の管理方法を見出す	取組目標に掲げた課題が最も大きい柏原集落で10数名の役員が参加した話し合いや、営農組合長、農会長、自治会長との協議を実施し、実態を詳細に把握・共有できたことで、効果的な案を見出すことができた（交付金活用、機械導入の可能性等）。		